

令和6年度 府立桃山高等学校(全) 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>○文武両道・自主自律の校是のもと、学習と部活動の両立を図り、知・徳・体の調和のとれた創造性あふれる心豊かな人間の育成を目指す。</p> <p>○SSH3期目の指定のもと、SSHを本校の中核的な取組とすることで、教育活動の充実を図り、資質・能力「5C」(*)を身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成を目指す。</p> <p>○公立高校の中核校として、次代を担う人材の育成を図るとともに、府民の期待に応える学校づくりを推進する。</p> <p>○新学習指導要領を踏まえた教育活動を推進する。</p> <p>*5C 本校では、グローバル化とサイエンスの発展が重要となる次世代社会において、国際的に活躍し得るグローバルサイエンス人材に必要な資質・能力を、以下の5項目として育成を目指している。</p> <p>①Critical thinking and problem solving (批判的思考力と問題解決) ②Creativity and innovation. (創造力と革新) ③Collaboration (協働力) ④Communication (コミュニケーション力) ⑤Challenge (挑戦力)</p>	<p>(1) 「自主自律・文武両道」など、本校の特色や教育理念、またSSH3期目の指定校としての取組等を中学生・保護者に伝え理解を得て、前年度に引き続き、学習意欲が高く本校の様々な取組に高い関心のある入学生を迎えることができた。今後は、入学してきた桃山高校生・保護者の期待に応えるべく、これまでの成果の上に立った、さらなる高みを目指した教育活動を展開するとともに、さらなる学校の魅力発信に努めたい。</p> <p>(2) SSH事業において、普通科・自然科学科ともに学校設定科目「グローバルサイエンス探究」の充実が図られるなど、探究的な学びが進み、その成果が着実に次世代で活躍する人材としての資質・能力の育成につながることができている。次年度は第4期SSH指定獲得に向け、探究的な学びをさらに充実させるとともに、将来的に自走できるよう教育課程の研究開発を推進する。</p> <p>(3) 組織的な教科指導や進路指導の実施に努め、進路実現に向けて、学校全体で最後まであきらめない指導を行えた。結果、国公立大学や私立の大学に、多くの生徒が現役合格でき、難関大学へも積極的にチャレンジしてくれた。今後は、生徒の学びの志向性にさまざまな刺激を与え、より高みを目指す進路目標にも積極的にチャレンジできるような組織体制を確立するとともに、生徒の意欲に火をつけ「主体的学習者」の育成につながるキャリア教育を継続していきたい。</p> <p>(4) 新学習指導要領や新しい大学入試制度に対応するため、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、記述力や英語の4技能の向上に向けた取組など、組織的に計画的に取組を推進することができた。今後は生徒の多様性に目を向け、ICTを活用しながら「個別最適化した学び」や「協働的な学び」を推進していきたい。</p>	<p>(1) 「主体的学習者」の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」への授業改善、学びにおけるICTの利活用、生徒の多様性に目を向けた「個別最適化」した学習指導や「協働的な学び」について研究・実践を進め、桃山高校の学びのデザイン再構築を行う。</p> <p>(2) より高みを目指す進路目標にも主体的・積極的にチャレンジできるような組織体制の確立や、生徒の意欲に火をつける学習・進路指導を継続して展開する。</p> <p>(3) SSH3期5年目である今年度も、「資質・能力5Cを身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成」という目標を、教育活動全体に落とし込み、4期目指定獲得に向けて全校体制で実践していく。</p> <p>(4) 生徒が主体的に「夢・感動・挑戦」の舞台を創り上げることができるような「学校行事」の検討や、生徒が自ら高みに挑戦することによって実現する「高いレベルでの文武両道」への仕掛け作りを行うていく。</p> <p>(5) 教職員自身が桃山高校生にとってのロールモデルとなることを目指し、桃山高校働き方改革を進めるとともに、高いコンプライアンス意識をもった教職員集団を形成できるよう努め、生徒にとっても教職員にとっても魅力ある学校を作る。</p> <p>(6) スクール・ミッション、スクール・ポリシーを踏まえて教育活動を行い、その活動の内容を学校内外に戦略的に広報することで、魅力・特色を府民に発信し、選ばれ続ける学校づくりを推進する。</p>

令和6年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	最終	
教務部	「主体的学習者」の育成のための教育活動や授業改善の取組を支援する。	新学習指導要領の完成年度及び第4期SSHの指定に向けて教育課程を点検、見直しをする。			
		学年部、保健部及び各教科と連携し、特に学習に際して課題を抱える生徒に対して、補充等を通してきめ細かく対応する。			
		公開授業などを通じて「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を、教科をこえて共有する機会を設ける。			
生徒指導部	生徒が主体的に「夢・感動・挑戦」の舞台を創り上げることができるような「学校行事」の検討や、生徒が自ら高みに挑戦することによって実現する「高いレベルでの文武両道」への仕掛け作りを行っていく。	生涯にわたってスポーツを楽しむ能力や態度を培う。生徒会を中心に、生徒全員の創意工夫を生かした主体的な取り組みを行い、良き伝統を継承し、時代に応じた新しい魅力を作り上げていく。			
		生徒の主体性を養い、HR・部活動・生徒会の活動を充実させ、一人一人のキャリア発達を向上させることを目的とする。また、加入率の向上と活動実績の広報活動を行う。			
		あらゆる教育活動のなかで発達支持的生徒指導を充実させ、生徒が自己肯定感・自己存在感を感受し、自発的・主体的に自己のキャリアを形成し実現していけるような支援・指導を行う。			
進路指導部	生徒の意欲に火をつけ、生徒一人ひとりがより高みを目指す進路目標にも主体的・積極的にチャレンジできるような進路指導を展開する。	多様な進路実現に向けて、火曜、水曜、金曜の7限の時間を活用し3年生対象の平日学習会を実施する。平日、土曜日、長期休業中などの学習会が、進路実現を目指す生徒の意欲の向上につながっているか振り返る機会を設ける。			
		模試を精選し、模試の事後活用を丁寧に伝える機会を設ける。例えば模試結果から浮かび上がる学習課題の克服に向けて、以後の学習を調整する事後指導の機会の設定。			
教育企画推進部	「主体的学習者」の育成に向けて、「個別最適化」した学習指導等を実践するために、ICT環境を整備し、利活用を図る。	ICT機器の整備と同時に、現在ある機器の確認を進め、各教員が活用しやすいように情報を共有する。また、引き続き教職員向けの研修会を実施したり、ICTの活用方法を共有することで、学校全体のICTリテラシーを向上させる。			
	広報をより充実させ、本校の魅力・特色を発信することで、選ばれ続ける学校作りを推進する。	必要に応じて説明会や学校案内の内容などの見直しを行い、より本校の魅力を伝えることができるよう改善する。中学生・保護者の目に触れることが多いホームページ、公式YouTubeチャンネルのコンテンツを充実させる。			
	「資質・能力5Cを身に付けた、次世代社会を創造し牽引するグローバルサイエンス人材の育成」という目標を教育活動全体に落とし込み、SSH3期5年目の事業を全校体制で実施する。	SSH3期申請内容に基づいて令和6年度事業計画の取組を実施し、3期全体を通しての効果検証と成果普及を行う。また、SSH4期の申請に向けて、職員会議での研修や協議を通して申請内容を教職員全体へ周知し、全校を挙げて生徒が探究的な学びを通して自身のキャリア観を形成し、希望進路を実現させることを支援する体制作りを進めていく。			

令和6年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	最終	
保健部	生徒の多様性に適応できる学校環境の整備	学校不適応が心配される生徒の学校生活への適応を支援するとともに、気にかかる生徒の早期発見・早期対応に努める。			
		特別支援教育の個別支援を要する生徒について適応対策会議を通じて状況の共有を密にする。			
		学習環境のユニバーサルデザイン化を進めるとともに、環境美化に努める。			
図書部	「5C」を身に付けた人材の育成、「主体的学習者」の育成に必要な桃山高校の「学び」を探究する。	図書委員による自主的、積極的な図書館運営（班活動、読書月間における各種行事の立案と実践など）を行う。			
		探究をはじめとする各授業での図書館の活用や、教職員の図書推薦などの様々な仕掛けを試みる。			
		「5C」に関する図書を充実させるとともに生徒に向けて紹介する。			
第1学年部	桃山高校での生活を通して、主体的に行動できる生徒を育てる。さらに人とのつながりを大切に、協働して取り組むことで共に成長し合える集団を作る。	学習活動を通じて個々の生徒の特性を把握し、個別最適化した学習指導、生活指導を充実させる。それにより、生徒自身が主体的に進路選択できるような指導を目指す。			
		担任が生徒たちの思いを聞き出すことを大切にすることで、生徒たちひとりひとりに相談することの重要性と話を聞く姿勢の大切さを実感してもらい、生徒たちのつながる力の成長を促す。			
		学校行事、LHRを集団がさらに成長するための機会であると捉え、学年通信等を通じて他者の視点から行事を振り返ることで、集団への帰属意識を高める。			
第2学年部	桃山高校での生活を通して、主体的、自律的に行動できる生徒を育てる。	ホームルームや面談などを通じて、個々の生徒の特性を把握し、個別最適化した、学習指導、生活指導を継続的に行うことを目指す。			
		生徒たちが、進路実現までの2年間に見通しを持ち、主体的に進路選択ができるような指導を充実させる。特に進路実現に向けた課題設定を、生徒たち自らが行うような仕組みを作り、主体的な学習行動を促す。			
第3学年部	望ましい社会人となるための資質、能力を主体的に伸ばすことができるよう、自らの将来を展望し、目標実現のための努力を継続できる力を育む。	関係分掌と連携し、ホームルームや個人面談など、あらゆる教育活動の場面で、生徒集団や個々の生徒とのコミュニケーションを継続的に図り、希望進路の実現のため、主体的、意欲的な態度で学校生活を過ごすことができるよう指導する。			
事務部	分掌、教科等と連携し、予算を効果的に運用するとともに、行政的な立場から教員に寄り添った学校運営、教育活動を推進する。	校内における危険箇所、不具合箇所について迅速に対応するとともに生徒、教職員の安心・安全に向けた施設・設備の整備・充実を図る。			
		長寿命化改修工事による教育活動への影響を最小限にするとともに、ICT機器の利活用を推進するための教育環境整備に努める。			

令和6年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	最終	
国語	国語で的確に理解し、効果的に表現する資質・能力を育成する。	ICT教材を積極的に活用しながら、生涯にわたって主体的に学んでいく学習者の育成を行うと同時に、生徒の多様性に配慮した学習指導や、「協働的な学び」について研究・実践を重ねる。			
		全学年で実施されている学習指導要領や大学入学共通テストについて研究を進め、生徒の国語力育成に還元すべく、教科内で情報を共有する。			
地歴公民	興味・関心と学習意欲を高め、自ら学ぶ力、考える力を育成する。	板書、プリントを充実させ、資料（写真、統計、史料等）や視聴覚教材を有効に活用する。			
		ICTを活用した授業や「協働的な学び」を意識した授業を研究・実践し、「主体的・対話的で深い学び」による思考力・表現力等の育成を図る授業改善に取り組む。			
数学	学習意欲の向上を基盤にした主体的学習者の育成を目指す。グローバルサイエンス探究との相互の連携を図り、論理的思考力の獲得を通して実践問題に積極的に取り組む態度を養成する。	小テスト、定期考査、模擬試験の到達度目標を早期に提示することで、学習計画の作成を習慣化させる（手帳およびチェックシートの活用）。目標へ向けた取り組みの過程においては、多様な生徒に応じた学習方法の提案や長所を生かすような指導方法を検討する（個別最適化）。また、できるだけ多くの生徒に数学検定の受験を推奨し、習熟度の高い生徒へ向けては数学オリンピックや数学コンテストへの参加を促して数学の楽しさや深く考える面白さに触れる機会を提供する。			
		深い学びにつながる教授法や視覚的教材の活用を継続して検討する。また、ICTを用いて生徒のレポートや添削課題等の生徒間共有を図り、ペアワークや探究活動を通して数学的、論理的思考力を磨く。			
		新学習指導要領完成年度を迎え、教育課程および指導計画や評価の方法（従来の評価と観点別評価の整合性）について2年間の実績を基に検討し、問題点を共有して改善する。			
理科	協働的な学びや見通しをもった実験の実践を通して科学的に探究する活動の充実を図り、主体的学習者の育成及び学力向上につなげる。	思考力・判断力・表現力を育むための実験・実習を積極的に行う。			
		観点別評価法をさらに研究し、「指導と評価の一体化」の観点から、授業改善を行う。			
		教材や授業を教科内外へ公開し共有する。			

令和6年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	最終	
保健体育	<p>体育・保健の見方・考え方を働かせて課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を育成する。</p>	<p>具体的な知識と汎用的な知識とを関連付けて理解できるようにするとともに、科学的知識を基に技能を身に付けることでその理解を一層深める等、知識と技能を関連させて指導する。また、技能の向上に向け、ICTの有効活用を積極的におこなっていく。</p>			
		<p>自他や社会の課題を発見し合理的、計画的に解決することや、新たな課題の発見につなげたりすることができるよう知識を活用、応用して思考・判断したことを、根拠を示したり他人に配慮しながら言葉や動作などで即座に表したり、図や文章及びICT機器等を利活用して筋道を立てて伝えることができるよう指導する。</p>			
		<p>愛好的態度及び健康・安全、公正、協力、責任、参画、共生について、汎用的な知識を関連させて指導することで、主体性を促し、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現していく資質・能力を育成する。</p>			
芸術	<p>音楽：学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の徹底を図るとともに、本校生徒の実態に即した授業展開の工夫に努める。</p>	<p>主体的に音楽に関わり、感受する力の育成に資するため、生徒相互による批評活動を積極的に取り入れるとともに、タブレット端末の効果的な利用を通して、個性的な音楽表現の向上を図る。</p>			
	<p>美術：授業と評価の一体化をふまえた授業計画を立て、その趣旨を理解した主体的な学習者の育成を図る。</p>	<p>課題のテーマや評価観点を具体的にかつ明確に示すと共に自分の創作活動を客観視するために生徒相互の評価活動を授業内に組み込むような授業計画をたてる。</p>			
	<p>書道：書に親しむ活動を通して、感性を高め、書写能力の向上を図り、主体的な学習者の育成に向けた授業展開を行う。</p>	<p>基礎・基本を身につけ、「表現」、「鑑賞」の学習内容に、批評活動を積極的に取り入れた授業展開を行う。</p>			
英語	<p>英語学習における「主体的学習者」を育成する。</p>	<p>授業、家庭学習を通して、主体的に英語力向上に取り組めるよう、ICTを効果的に活用するとともに、1年間の学習計画と効果的な学習方法を明確に示す。</p>			
		<p>教員による解説を簡潔にし、ペア・グループワーク、パフォーマンステスト等を通し、生徒の英語の発話量・読解量・活動量を増やす。</p>			
		<p>パフォーマンス課題をさらに推進し、自己表現や学習成果のアウトプットの場として生徒が主体的に取り組み、英語を使う楽しさを感じられるようなパフォーマンス課題の仕組みをつくっていく。</p>			

令和6年度学校経営計画

領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			中間	最終	
家庭	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技能を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	講義や実習・実験を通して、家族の健康と衣食住についての知識を身につけさせ、実践する力を育てるように指導する。清潔に衣服を管理し、時には取れたボタンをつけ補修する程度の力を育てるため、被服製作実習を取り入れる。			
		消費生活について、経済のしくみを理解し、生活を管理できるように指導し、ロールプレイなどを行い、消費行動が環境問題に関わることの理解を深める。18歳成年年齢となり、消費トラブルに巻き込まれないように、動画やICTを利用しながら巻き込まれた時の対処方法なども身に付けさせる。			
		乳幼児と高齢者の生活や福祉についても、ライフステージごとの心身の変化を「シニア体験」「マタニティー体験」実習により理解を深める。			
情報科	新学習指導要領の確実な実施により、情報と情報技術を活用する力と情報社会に参画する力を養う。教科の教育活動を通して学びの自己調整能力を養い、生徒の実践的な情報活用能力を育てる。	副教材等への継続的な取り組みを通して、情報に関する知識理解を深めるとともに、学習の手法等を体験的に習得する。			
		パフォーマンス課題実施し、観点別評価にも活用する。その際、生徒一人ひとりの主体的テーマ設定が可能になるよう工夫する。			
グローバルサイエンス	探究的な学びを通して、予測不能な時代を生き抜くために必要な資質・能力「5C」の育成を図る。またSSH4期目申請に向け、申請内容について全教職員が共通認識を持ち、全校で探究的な学びを実施する体制づくりを行う。	GS探究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを通して、3年間の探究的な学びのストーリーを生徒、教員、保護者が実感できるように、探究通信等を用いて情報発信する。また、複数の教科担当者がスムーズに実践できるよう、GS科目の位置づけや教科担当者の役割を明確にし、情報・教材を整理して共有する。			
		探究的な学びの目標と照らし合わせ、各学年の教材や探究の発表・まとめ等のあり方について見直し、改善していく。			
		SSH4期の申請に向けて、職員会議での研修や協議・公開授業などを通して申請内容や目指す生徒像を教職員全体へ周知し、探究的な学びを通じたキャリア観の形成等について共通認識を作る。			

学校関係者 評価委員会 による評価	
-------------------------	--

次年度に 向けた改善の 方向性	
-----------------------	--